魔王が勇者の母親を
寝取ってボテ腹にしたあげく
その子宮から産まれなおす話
ちょ…ちょっと!?
もみ♥
もみ♥
だめっ…そこっ
あっ…♡
ビクッ♥

あ♥
ギシッ
ん♥
ん♥
ん♥
ん♥
ふっ♥
ん♥
ん♥
ん♥
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ズチュッ♥♥
ブチュッ♥♥
ズチュッ♥♥
ブチュッ♥♥
どう…気持ち良い？
エリオン
うんとっても気持ち良いよ
母さん…♡

聖歴三九二年
魔王ディザイアスによって
世界は混沌の一途を
辿っていた
その混乱の最中
世界を救うために
立ち上がった
一人の勇者がいた
その名を
エリオン――
彼は旅の途中で
出会った仲間達と共に
数々の困難をくぐり抜け
激闘の末に
魔王をあと一歩の
ところまで追い詰めた

魔王城

ゴロ

ゴロ…

覚えていろ…勇者エリオン…

何度滅ぼされようと余は必ず蘇る…！

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

ゴ

より力を蓄えた強大な魔王となってな…!!

その時は僕が――

何度だって滅ぼしてやる！

ほざくな！

小童…がぁ…ッ！

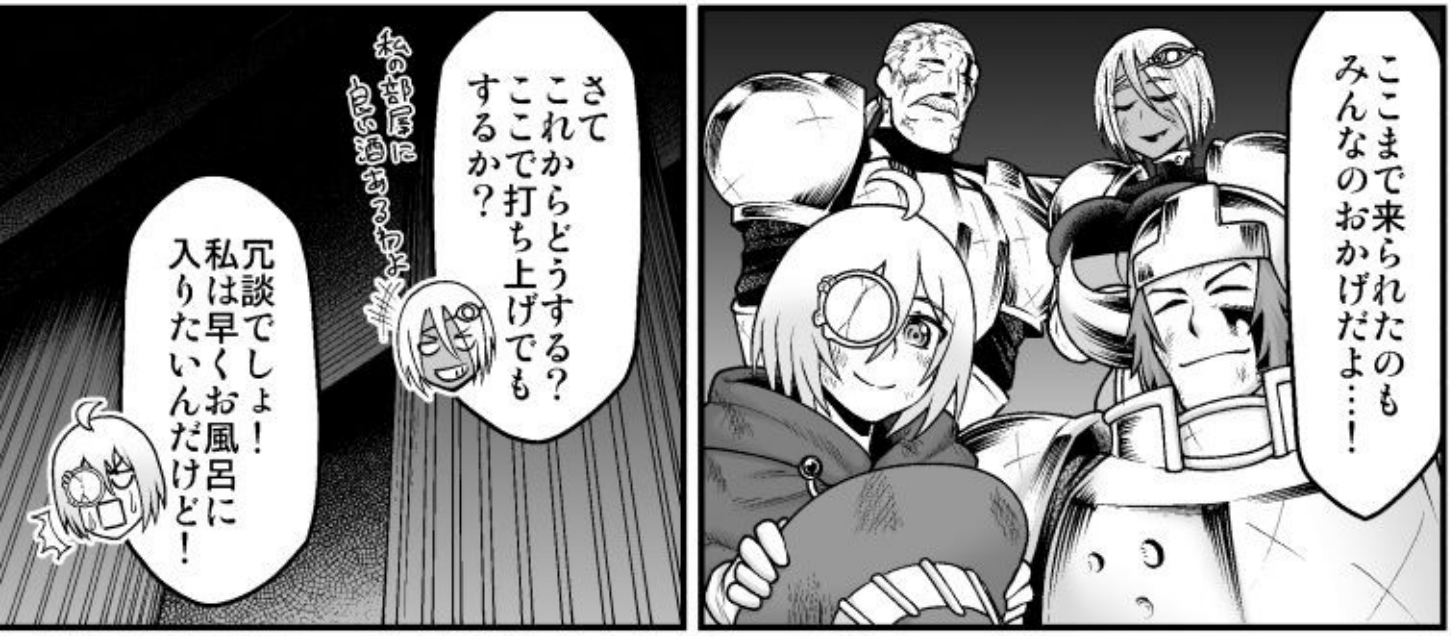
忘れぬぞ…勇者エリオン…
必ず…必ずや…
貴様に死よりも残酷な絶望を味あわせてくれる…！

お…終わったの…？
みたいですな…
ようやく大団円ってやつか…
みんなよく頑張ったわね…

やっと…やり遂げたよ…
父さん母さん…
ドシャッ

エリオンも
お疲れ様っ！

バシッ
ついにやったな魔王討伐！
さすがは伝説の勇者様だわ…！
ありがとうみんな…


ここまで来られたのもみんなのおかげだよ…！
さてこれからどうする？ここで打ち上げでもするか？
私の部屋に良い酒あるわよ
冗談でしょ！私は早くお風呂に入りたいんだけど！

僕は一度王宮に戻るよ
王様に謁見したあと家に帰って母さんに報告する！
おうそれがいいな
そういえばエリオンの故郷ってどこだっけ？
「リマジハ」っていう小さな村だよ
早く母さんの喜ぶ顔が見たいな…
ズルゥ…

ふ～っ

お洗濯おーわりっと

さてそろそろお昼の時間ね～♪

ドチャ

パンッ

勇者の母
アルネラ

ここが勇者の生まれ故郷か…

先の戦いで魔力をほぼ失ったが…あの女を殺すくらいは簡単にできよう…

絶望に歪む勇者の顔が楽しみよ…

どうせなら別の姿で殺してやろう

余をここまで苦しめた褒美よ…

バチッ

バチッ

ふむ

我ながら完璧だな

せめてもの手向けだ…

最後は愛する息子の手で逝くがよい…

こっちから物音がしたけど…

誰かいるのかし――

ヒョコリ

ら？

えっ
も…もしかして…
エリオン…!?
ちっ…ひとまず誤魔化すか…
あ…えと…
たっ…ただいま母さん…
エリオン!!
もうずっと待ってたのよこの馬鹿――っ!!
ガバッ
ムニッ
ご…ごめん母さん…
ムニッ
バレていない…!

ねぇ エリオン
冒険の話を聞かせてくれる？
上手くいったようだすっかり余を息子だと思い込んでいる
そりゃもう大変な道のりでさ…
魔王を倒すのに三日三晩もかかって…
油断した隙にひと思いに殺してくれるわ
ふーん…そう…
でもこうやって無事に帰ってきてくれたんだもの
さすがやっぱりあんたは父さんと母さんの息子だわ♡
これも大聖神様のお導きね…！
死んだ父さんも草場の陰からきっと見守ってくれているわ…
旦那はいないのかそれは好都合よ…
あっそうだ
お茶淹れるねっ
ぎゅり…
あのペンダントは…
神の血筋にのみ伝わる大聖堂の神珠

聞いた事があるぞ…
かつて神の血を引く女が旅の剣聖と結び子を成したというが…その女の名を確か「アルネラ」と言ったか…
なるほど勇者の強さの秘密はそこにあったのか…道理で勝てぬわけよ
母が神の血を引く大聖女だというのならばこれを利用しない手はあるまい

それにこの女見ればなかなかに良い肉付きをしている
ただ殺してしまうだけでは勿体無かろう…
奴は余を息子だと信じ切っているようだし

何か手伝おうか母さん
ガタッ
あいいのよ座ってて

長旅で疲れてるでしょ？
うん…まぁね
母さんに出来る事があれば遠慮なく言っていいからね
本当？…じゃあさ…

溜まった疲れを癒して欲しいな…

母さんに♡

いいわよエリオン
じゃあ今日だけ特別…
お母さんに好きなだけ甘えなさい♡

ククク…
ちょろい女だ…

それじゃ…
ぷるるん♡
え…？

お言葉に甘えて…♡
ムニュン♡
あっ…

ちょっ…やだ エリオン…っ？
あんた 何やってんのぉ…
もにぃん♥♥
むにっ♥
んっ
んんっ…
むにっ♥
何って…
母さんに 甘えてるんだけど？
むにっ♥
むにっ♥
もみっ♥
もみっ♥
で…でもっ…
もみっ♥
もみっ♥
もみっ♥
もみっ♥
もみっ♥
こっ…これは ちょっと 違うでしょ…？
もみっ♥
違わないさ…

親子のスキンシップってやつだよ…

久しぶりに会えた母さんを肌で感じたいんだよ…

そ…そんなこと言って…

すり

むにっ

いたずらもいい加減に…

ふあっ…！

ビクッ♥

気持ち良さそうだね…母さん

ここがいいのかな？

キィィィ

んうぅ…っ

イイイ

ダメ――――ッ!!
ぐあっ
ごっごめんなさいっ…大丈夫？
魔除けのペンダントがなぜか勝手に発動しちゃって…！
これ壊れてるのかしら…っ
う…うん大丈夫だよ…
僕の方こそごめん…久しぶりに会えてなんだか気が昂っちゃって…
エリオン…
母さんを驚かせちゃったみたいだね…
その…母さんに甘えたいっていうその気持ちは分かるのよ…？
でも…さっきみたいなのはちょっと違うっていうか…
ほ…本当にごめんっ…
もう部屋で休むよ…
あ…ちょっ…エリオン…っ

ふむ…

『聖なる加護』か…

ブス

ブス

ブス

あのペンダントは厄介だな…

人間相手ならば弾かれる程度なのだろう…

だが我々魔族にはとんでもない威力だ

ぐじゅ

ずじゅ

魔法による干渉は無理だな

アレがある限り簡単には手が出せぬ

持ち主の意志や感情に影響を受けて発動する…

…なに触れられぬなら発動させなければよいだけのこと…

待っておれアルネラ…元大聖女のその神秘の身体に…

必ずや魔王である余を孕ませてくれよう

トン
トン
トン
トン
クッ
クッ
クッ
昨日はちょっと気まずかったなぁ
久々に会って少し戸惑いもあったのかも…
でも今日からはいつも通りよ！
頑張れ私！
おはよう母さん
平常心
平常心
あっ
おはようエリオー
ん？
もにゅんっ♡

やっやだ
あんたまたっ…!?
もみ♥もみ♥
いいじゃん母さんの胸触ると安心するんだ
もみ♥
もみ♥
もみ♥
な…何言ってんのこの子は…
もうやめなさいエリオン…
いい加減怒るわよ?
怒ってる母さんも見たいな〜
ギュッ♥
んっ…
ムチィ。。
ずっと離れ離れで寂しかったんだ
母さんもそうでしょ?
んっ…あ…
ちょっ…ほんとに…
やっ…
あっ…
やだ…んあっ…
やめて…って…

はいやーめた！
あーお腹空いた！
朝ご飯なに～？
？
？
翌日
よいしょっと
へー
母さんってこんなパンツ履いてるんだ…エッロ…♡
ギャーー！！
何してんのアンター!?
絶絶景景♡

お邪魔します
こら ちょっと…！
もぞっ
ふかふかとしたいい尻だ…♡
もみ♥
もみ♥
こら…んっ やめなさいエリオン…！
悪戯が過ぎるわよっ…
ここからいい匂いがするなぁ♡
つぷ
ビクッ
出なさいってばぁ…
あ…あとで酷いわよ…？
もぞ
もぞ
もぞ
こっ…こらぁ…
これ以上は…だめっ…
スカートの中が蒸れ蒸れだね♡

イイイ
イイイ

さーて素振りでもしよっかな

さっ

えっ!?

な…

なんなのよ一体…

ギャーー!!!

なっ!?

母さんのお尻大きくて気持ち良い♡

もに

母さんのおっぱいいい匂いする～♡

その後も

息子に毎日のようにセクハラを受け続け

あぁごめん入ってたんだね知ってた♡

心身ともに疲れ切ったアルネラは

憔悴しきっていた

ずーーーん

ここのところエリオンが変だわ…旅に出る前と後でまるで別人みたい…

なんかすごくエッチというか…

そりゃ甘えられて悪くない気分ではあるけど…

でも…よく考えたら
あの人だっていつも私に
エッチなイタズラ
してきたし…
ギャーーー!!
もしかして
そういう血…?
なのかも?
それに…帰ってきたあの子
…どこかあの人に似てて…
ゴクリ…
なんだかすごく…
ドキ♥
ドキ♥
大人びて見えて…
ドキ♥
ドキ♥
ドキ♥
ドキ♥
とても愛おしくて…
んんっ♡
ムチュ♥
ドキ♥
こんなにも
ここが疼いて…
カリ…
ドキ♥
ドキ♥
ドキ♥
クチュ…♥
あっ♡
ドキ♥
ドキ♥

主人がいなくなってもうどうしたらいいのか分からないの…

エリオン…っ

んっ…

はぁ…♡

ダメなのに…あの子の顔なんて想像しちゃって…

エリオン…っ

くちゅ♥

くちゅ♥

くちゅ♥

力強い手で胸を揉まれたこと思い出しちゃう…

あっ♡

ムギュ♥

んっ♡

エリオ…んっ♡

だめ…手が止まらなっ…！

くちゅ♥

くちゅ♥

くちゅ♥

あっ…んんっ！

いくっ…

ビクッ♥

ビクッ♥

ムワァ…

あぁ…こんなに…

身体が勝手に疼いてオナニーがやめられないなんて…
なんてエッチなの…私…
こんなところ…エリオンに見られたら大変な事になるのに…♡
ぺろ
ぺろ
ぺろ
ぺろ
ガチャッ
あっ母さ…
ガタタッ
ななっ…何の用かしら!?
母さんの身体には触らせてないわよ!?
もしかして見られてた…
ぎゅっ
あ…ごめん気を悪くしたなら謝るよ
僕なりに母さんのとのコミュニケーションを取ろうと思って…
コミュニケーション?
旅の途中で立ち寄った「ドンラプーソ」って町では
人と人…主に男女の親密な交流が盛んでね
そこではちょっとエッチなボディタッチが男女の仲をより深めるって聞いたんだ
それは例え親子や友人間でも例外なく――

だからさ僕たちももっと仲を深めようよね？
パシッ
母さんと離れていた時間を埋めたいんだ
えっ…えっと…
でもやっぱり親子でこういうのって少し変わってるというか…
母さんは僕が嫌い？
チリ
チリ
そっそういうわけじゃないのよっ…？困ったわね…
こんなに甘えてくるなんて正直ちょっとおかしいわ…
でも長い旅の途中でつらい苦しみを味わったからかも知れないし…
本当に街で見聞きしたことを試してみたいだけなのかも…
どっちにしても息子の心のケアをしてあげるのも母である私の役目よね…？
じゃっ…じゃあその…すこしだけあなたに付き合ってあげる
こほんっ
ちょっとだけなら身体に触ることも許すわ…
でも約束はちゃんと守って！
あくまで親子のスキンシップであること！私がやめてって言ったらちゃんとやめること！
約束はこのふたつ！いいわね？
ニヤ…
わかった！

母さん顔真っ赤だよ
緊張してる？
そりゃするわよ…
いいからやるなら早くやりなさい
じゃあまず
親子のハグからしようよ
こっ…こんな感じ…？
ぎゅ…
うん気持ちが安らぐよ…
な…なぁんだ…少し警戒しちゃったけど
このくらい親子なら普通のことじゃない
そういえばこの子が小さい頃はいっぱい抱っこしてあげたっけ…
なんだか懐かしいなぁ…

ス…
確かにこうしていると愛情が増すわ…
エリオンが言ってたのもあながち間違いじゃ…
んうっ…!?
え…?
ちょ…ちょっと!?
あ…ごめん手がすべっちゃった
ぎゅちっ♥
ぎゅうう〜〜♥
ちょっ…そんな…力強く…っ!

んっ…だめよ…この子のペースに乗せられたら…

でも力強くて…なんだか変…っ

ううん…いつものイタズラで触ってるだけだもの…！

ピクッ♥

ピクッ♥

さわ

さわ

だから絶対感じたりしちゃダメ…!!

母親失格よ…っ

大きなお尻…

触り心地最高だよ…

ばかっ…

やはり思った通りペンダントは…

アルネラの感情に反応するようだな

最初は拒絶する気持ちが強かったが…

徐々に息子に心を開くようになって反応が鈍くなった

もう一息だ
ねえ母さん キスしようよ
親子のキス
えっ!?
バっ バカなこと 言わないで…

親子の愛を 確かめるんだよ? 誰だって やることだよ…
…でもっ

親子だからこそ キスくらい できなきゃ…
フー♥ フー♥
わっ… わかったわよ
やれば いいんでしょ?

んっ… んん〜〜〜…
チュッ♥
こっ これで 満足でしょ?
ね♡

ぐいっ
ぎゅる♥
ぐぐぐぐぐっ!?
ちょっ…こんな…無理矢理…!?
しかも舌まで…っ!?
じゅる♥
ぬりゅ♥
ずりゅ♥
ぐりゅ♥
あっ…だめ…これっ…
れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥
れろ♥
頭…おかしくなっちゃ…

だめっ…!!
ドン
ダメよ エリオン
親子で こんなこと 本当にダメなの…
でも母さん
すごく 気持ち良さそうな 顔してたよ?
僕の名前 呼びながら こんなに 濡らしてさ…
とろぉ…
えっ…!?
やっぱり 気づかれてた…!?
ヌル…
正直に なりなよ… 母さん
今まで父さんも 僕もいなくて 寂しかったんでしょ?
今の僕なら 母さんを慰めて あげられると 思うんだ…!
ドキ♥ドキ♥ドキ♥ドキ♥
あぁ…あなた… 私は…っ

いいエリオン？
これはあくまで親子の触れ合いであって…
そこにそれ以外の感情は…
ん♥
自分に正直になろうよ…
そういうのいいからさっ
こういうの気持ちいいでしょ？
ムニュン♥
ムギュ♥
私…息子に思いきりおっぱい揉みしだかれて…
感じてる…♡
ピクッ♥
ピクッ♥
やだ…
ピクッ♥
なんてはしたないっ…

どうしたの母さん
顔見せてよ
すごいメスの顔♡
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
もう完全に発情しちゃってるね…
プシッ♥
じゃあ今度は
僕のも気持ちよくしてもらおうかな…
…ッ！
エリオン…！
ズン…
息子のが…
ブクリ…
こんなに大きく…ッ！

ほら触ってよ
あっ…ちょ…
ギュ…
か…硬っ…熱い…っ
レロァ
母さんと触れ合ってこうなったんだ
責任とってよ…
ドクン
こんなのおかしい…おかしいおかしい…絶対変だし…ありえちゃダメ…
でっ…でも…
ドクン
エリオンのおちんちん…すごく硬くて…熱くて…たくましい…っ♡
ドクン
ドクン
ドクン
いいよ母さん…
その調子だ…
フー
フー
クチュ♥
クチュ♥
クチュ♥
クチュ♥
クチュ♥
グニュ♥
モニュ♥

あぁ…いいよ母さん…っ

すごくいい気持ちだ…

そ…そう…それならよかったわ…

擦れば擦るほど硬さを増し小刻みに震える息子

嫌悪感とも罪悪感とも違う

不思議な事に今は自分の手で息子が悦んでいることを…

嬉しいと思っている私がいる…

そう…そうよ…母親なんですもの

息子が喜ぶのを見て嬉しくないことなんてないわ…

あっ…出っ…！

出るっ…

えっ…ちょ…待っ

ビュルルル♥

ビュルルル♥

手の平に出されちゃった…

とろぉ…

息子の濃い精液…

はぁ

ぬるぬる…

はぁ

こんなにいっぱい…

も…もう満足したでしょ？そろそろ…

何言ってるの母さん

ここからが本番でしょ

えっ!?

僕のコレ…まだ治まってないんだよ…？

えっ…ええっ…!?

ビィィィン

嘘っ…さっきあんなに出したのに…!?

魔族の性欲があの程度で収まるわけがなかろう…

その身にたっぷりと思い知らせてくれるわ…

苦しいよ母さん…

今度は母さんの口でしてほしいな…

くっ…口で…

そうよね…子供が苦しんでいたら

ドキ ドキ ドキ

助けてあげるのが母の役目ですもの

こんなに大きいの…いつぶりかしら…

ビクッ♥ ビクッ♥

じゃ…じゃあ椅子に座りなさい…

すごい…間近で見たらこの大きさ…圧倒されそうだわ…

あの人のもこんなサイズだったかしら…

その気になってくれて嬉しいよ母さん♡

えっ…？ええ…

それにこのむせ返るようなオスの匂い…

精液の香りがこびりついて…

頭がクラクラしてくるわ…

だめだってわかってるのに

もう…止められない

久しぶりのおちんぽ…♡

まるで父さんにするような優しくて愛のあるキスだね…♡

頭が…痺れる…

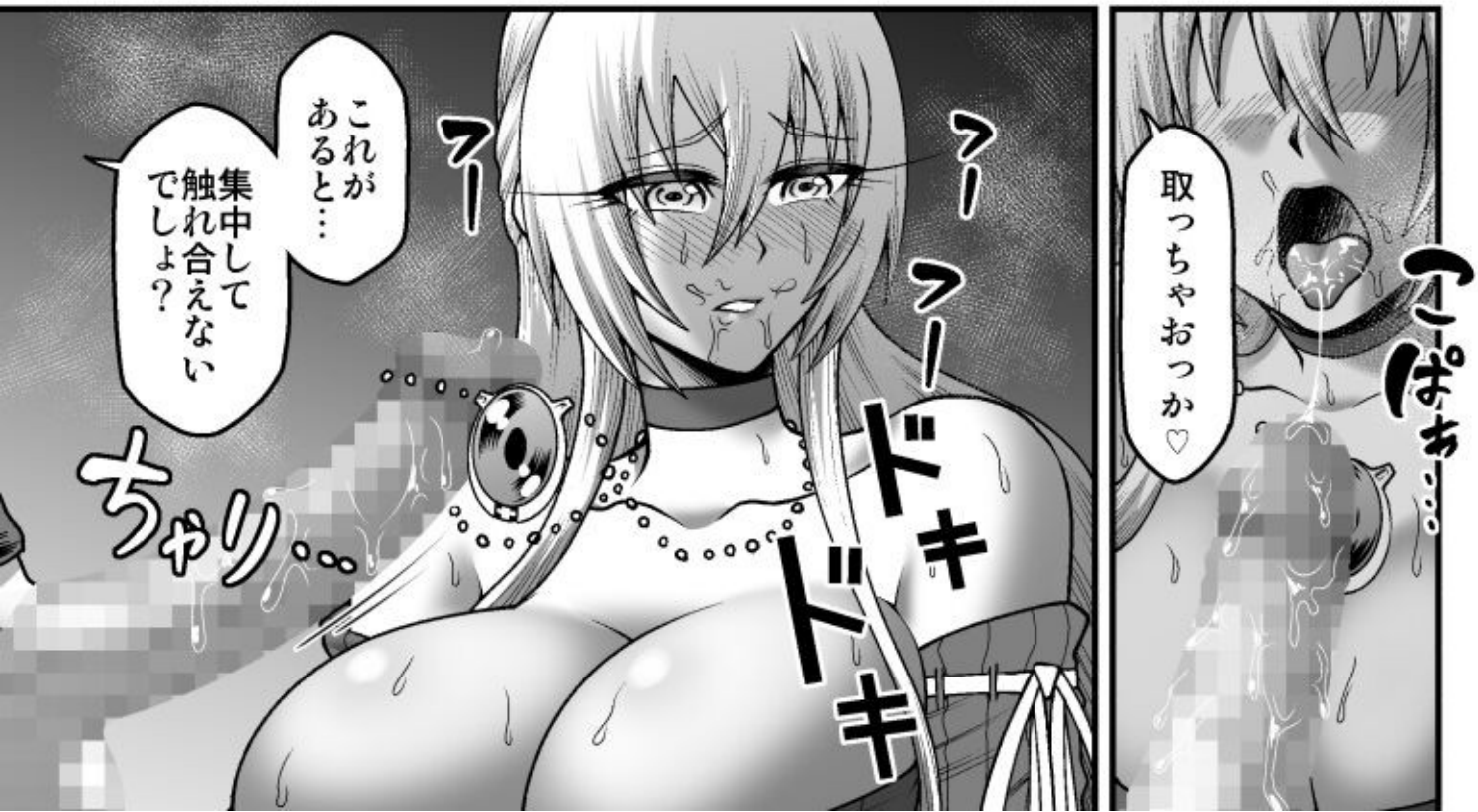
うっ…唇押し付けるの気持ちいいよ…

こんなの…我慢できない…

いいよ…段々積極的になってきたね…♡

私は自分が自分じゃなくなっていくような不思議な感覚に溺れていくのを感じていた…

じゅるるっ♥
じゅるっ♥
じゅぽっ♥
じゅぽっ♥
じゅぽっ♥
じゅる
あの人にもしてあげたことのないような激しいフェラチオ…♡
私の行為にエリオンが甘い声をあげてくれるのが嬉しくて
一心不乱に責めたててしまうの…



そっ…そうね少し後ろめたいかも…

でも私はあくまで母としてやってあげてるだけで――

じゃあもうやめよう…

え…っ

ピクッ

なんか悪い気がしてきたし…

大聖女とこういうことをしてるって思うと

……

あまり気乗りしないっていうか…

よくないかなって思っちゃった

どうして…どうして私…

すごく残念に感じているの？

そ…そう…ね

これでいいはずなのに…

…でも

もう体の疼きは…

止められなくて…

カッ

いいんだね
母さん
ええ
いいわ…
はぁ♥
はぁ♥
エリオン…
あなたごめんなさい…
ムギュ…
トクン
トクン
堕ちた♡
私と息子は今から…
ス…
ドキン♥
ドキン♥
ドキン♥
ドキン♥
ドキン♥
ただの男と女になります♡

はぁ♥
れろ
はぁ♥
れろ♥
もう戻れない…
今はただ…愛しい人のモノを貪る
我を忘れ一所懸命に…
じゅぽっ♥
じゅる♥
じゅ♥
そこに親も子もないわ…
じゅぽっ♥
じゅぽっ♥
じゅぽっ♥
んっ♥
んっ♥
じゅぽっ♥
じゅぽっ♥
あるのはただ快楽に溺れた女の姿だけ…
ぐっ…
出る…っ！
ドピュルルルルッ♥
すごい量…
こんなの…膣内に出されたらどうなるの…？

口の中見せてよ…

ぬちゃ…

うわぁ…精液でいっぱい…

濃い精液…♡

飲んで♡

フー♥フー♥

んっ♥

粘り気のあるそれを飲み干す

ゴクン

やだ…私…

はぁ…

よくできました

これじゃまるで娼婦みたい…

じゃ部屋に行こうか…

ちゅっ♥

ぢゅる…♡

ぢゅるる♥

もう抗えない…♡

んっ…♥

んん…♥

じゃ
脱服いで…♡
ええ…♡
ドキン
ドキン♡
私の体…変じゃない？
すごく綺麗だよ！
おっぱいもお尻も大きくて僕好みだ…！
ふふ…ありがと♡
ミュル…
ムチッ♡

ほら楽にして♡
ちゅっ♥
ちゅっ♥
ちゅっ♥
あっ…んっ慌てないで…
母さんの唇…柔らかくて美味しい…♡
ハァ♥ハァ♥
今度はこの大きなおっぱいで挟んでほしいな…
ぎゅ…♥
ふふっいいわよ…♡
んっ
んふぅ…♡
こんな感じ？
乳圧すごっ…♡
ちんちんが全部隠れちゃった…
ニュ♥

こんなのあの人にもしてあげたことないのに…♡
ムニュ♥
ムニュ♥
どう？気持ちいい？
最高だよ♡
フー♥
フー♥
嬉しい…♡
ピクッ
ピクッ

うっ…
気持ちよすぎるよっ
ニチュ♥
グチュ♥
…んっ♡いつでもイっていいわよ♡
グチュ♥
うっ…あっ…！
ムニュ♥

でるっ…！
ビュルルルルル♥
ビュルルルルル♥
んっ…♡こんなにいっぱい…♡
母さんのおっぱい…エロすぎ…
ムニュ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
あっ♡
こねちゃだめっ…♡
ムワァ∞

あんっ♡
クチュ♥
ここ…すっかりぐちゃぐちゃになってるね…
さっきからここが切ないでしょ？
ビクッ♥
だめっ…そこっ…
クチュ♥
んんっ…♡
クチュ♥
クチュ♥
切なくてたまらないの…
ハァ♥
ハァ♥
お願いっ
ドクン♥
ドクン♥
エリオンの…硬いの…っ
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ママに頂戴…♡

はあ…っ♡
あっ…♡
そこっ…
ビクッ♥
ビクッ♥
んっ♡
ちゃんと挿れる前に準備しなきゃね
クチュ♥
クチュ♥

よし…もういいかな…
ヌポッ♥
んっ…
んっ…♡
ビッビッ

早くちょうだい…♡
パッ♥
パッ♥
パッ♥
挿れるよ…母さんっ…！
クチュ…♥

ぬりゅ…♥
あっ…
入ってくる…♡
はっ♥
ぬぷぷぷぷ
あぁ
あっ♥
息子の生おちんぽっ……――
奥まで入ったよ…
母さん…♡
ずぬぬ…♥
ええ…
ハっ♥
ハっ♥
感じるわエリオン…♡
ムニュ♥

ククク…
ようやく手に入れたぞ…
勇者の母親を…
愛してるよ母さん…♡
私もよエリオン…

あっ♡
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
ヌチュ♥
んっ…だめっ
あっ♡
いいっ…♡
あッ…
ズチュ♥
ズチュ♥
ズチュ♥
ズチュ♥
おっ
奥まで…来て…るッ…♡
んんッ…♡
パッ♥
パッ♥
パッ♥
パッ♥
あっ♥
あぁぁぁッ♥

どう…？気持ちいい…母さん…？
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
んっ♡
はっ♥
はっ♥
はぁ♡
えっ…ええ…♡
はぁ♥
はぁ♥
はぁ♥
はぁ♥
とろぉ…♥
んあっ…いいの…ッ
パチュ♥
パチュ♥
パチュ♥
パチュ♥
奥に…赤ちゃんのお部屋にコツコツ当たってる♡
んあっ♡
ズブッ♥
ズブッ♥

あぁ…信じられない…

あぁんっ♥

あっ♥

今私…

ふっ♥

実の息子とセックスしてるのね…

んっ♥

んっ♥

愛する息子に優しく抱かれて…

久しく忘れていた快楽の味を思い出す…

あんっ♥

あっ♥

いいっ♥

私の中にほんの少し残った背徳感が――

もっと♥

もっと

更なる快感に火を点ける

あっ♥
あっ♥
あぁ
ビクンビクン♥
ジャアアアアアル
私…
ハッ♥
ハッ♥
ハッ♥
イっちゃった…♡
すごいイキっぷりだったよ…
バチュ♥
バチュ♥
バチュ♥
バチュ♥
ん♥
あっ♥
ベッドがびしょびしょだ…♡
そろそろラストスパートだね♡
あっ♥
パンパン♥
パンパン♥
ん♥
パンパン♥
あんっ♥

じゃあ最初の中出し
いくよっ…
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
ええ…来てっ…
来てっエリオン♡
ブチュ♥
ブチュ♥
ブチュ♥
膣内にっ♡
膣内にいっぱいちょうだいいっ…♡
ドピュッ♥
ドピュッ♥
ドピュッ♥

息子の精液が…

ドプ♥ドプ♥

膣内にいっぱい注がれていく…っ

ボロ…

ビクッ♥ビクッ♥

もう…ダメ…この気持ち良さ…

ハァ♥ハァ♥

クセになるぅ…

まだいけるよね母さん…

僕…もっと続けたいよ

エリオン…♡

ええ…

フー♥フー♥フー♥

もちろんよ♡

また膣内で大きくなってる…！
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
おちんちんが…精液を出そうとしてるのが…っ
わかるわ…っ♡
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
好きよっ…エリオン…♡
ぐちゅ
ぐちゅ
ずちゅ
ずちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ
ずちゅ
母さんっ…♡

あんっ♥
パンッ♥
はっ♥
パンッ♥
あんっ♥
あぁんっ♥
パンッ♥
パンッ♥
パンッ♥
はぁんっ♥
あんっ♥
ブルンッ♥
ブルンッ♥
あぁんっ♥
ドプ♥
ドプ♥
ドピュルルル
んっ♥
んんっ♥

おっ♥
ずぢゅ♥
ぢゅ♥
ぢゅ♥

エリオン…疲れたでしょ？

今度は母さんが動いてあげる♡

うん…お願い

ハァ♥

ハァ♥

あっ♥

んっ♥

ぬちゅ♡

ハッ♥

ハッ♥

ズチュ♥

ズチュ♥

どう…気持ちいい？

エリオン…

ズチュ♥

ズチュ♥

ズチュ♥

ズチュ♥

それから…何度も余は母親の膣内で果てた
うんとっても気持ちいいよ
母さん…♡
何度も何度も
何度も何度も
何度も何度も
この母胎に我が種を植え付けるため…
余の全生命力をこの女に出し尽くした…

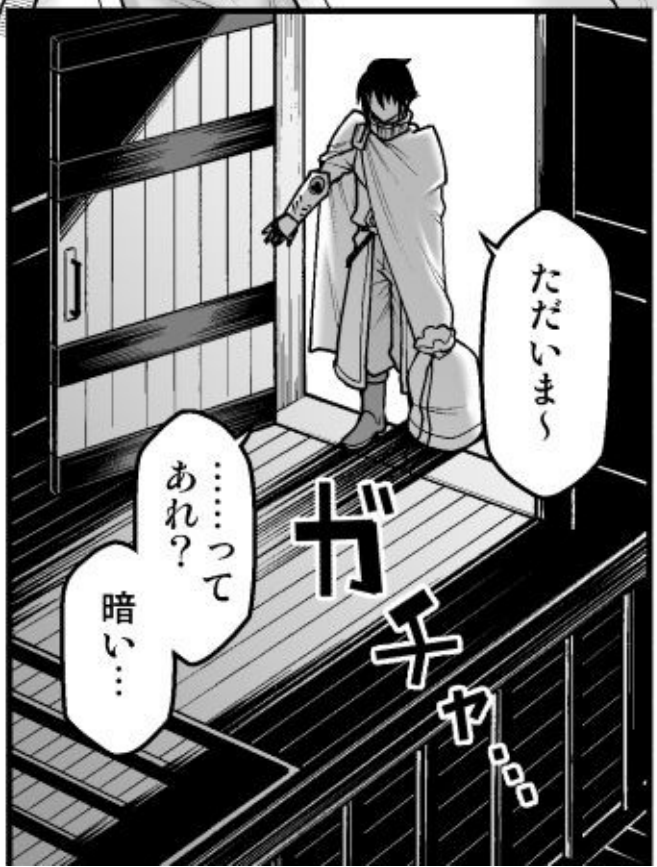
この女の胎内に新しい生命が宿ったのを…
ハァ
ハァ
ハァ
感じる
感じるぞ…
ゴプ…
余の計画は
成った…
あとは…
時を待つのみ……
ザラ…

数か月後

やっと着いた～！

魔王討伐の後始末だったり押し寄せる依頼の消化で忙しかったから

結局予定よりだいぶ帰る日程伸びちゃったけど…

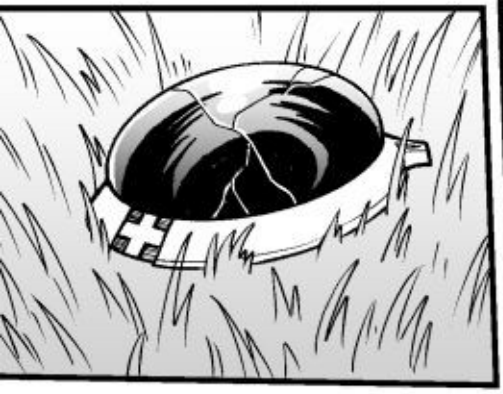


おかえりなさい♡
なっ…
何…そのお腹…！
なにって…あなたの子よ♡
え…僕？
僕って…えっ？僕の子って…何？どういうこと？状況がつかめない…
一体何がどうなってるんだ…!?

母さんね…エリオンが突然いなくなって…すごく寂しかったのよ…？

シュル…

特に妊娠すると性欲が強くなっちゃうみたいで…とても辛かったんだから…♡



さ…エリオン久しぶりに親子の触れ合いしましょ…？

それともお腹の大きい母さんはいや…？

ギシッ…

うっ…

余は…

新しい生命となって生まれ変わり…

より強大な魔王となって蘇る…

それまでせいぜい…
偽りの平和を享受するがよいわ…

腰は大事に（挨拶）
劇団☆鬼ヶ島の作画担当、鬼山です

腰を激しく痛めてしまったり、仕事が忙しかったりで
製作期間が一年以上掛かってしまいました…！
楽しみにしてくれていた読者の方々
申し訳ございません…っ！
今回はいつのも甘々と違って
母ＮＴＲという事ですが、お楽しみいたなら幸いです！
またお会いできるのを楽しみにしております
それではまた次回作にてー！

鬼山
【Twitter ID】
@oniyama199999
【pixiv ID】
2624258

サークル名：劇団☆鬼ヶ島　メンバー：しまゆう・鬼山
Twitter/@onigashima0202　pixiv/id=momokawa21

大変長らくお待たせいたしました。
ネーム担当のしまゆうです。

ついに完成いたしました！今作は、オリジナルママ本としては
シリーズ３作目にあたります。某RPG作品などに登場するものの、
普段はあまり注目されることのない“勇者の母”にスポットを当てて
描いてみましたが、いかがでしたでしょうか。

本来は３０P弱で終わらせる予定が、ネームを描き始めたら筆がノリに
ノッてしまい、気づいたら６０P越えに……。
鬼山氏には大変苦労をかけてしまいました。

世間のあれやこれやで生活が一変し、とにかく激動の毎日でしたが、
そんな中でもなんとか完成にこぎつけることができ一安心です。
世の中の母子モノファンに届け！！

しまゆう
【Twitter ID】
@simayuu_3594

※禁止※
１８歳未満の方の購入・閲覧。
ネットオークション・フリマアプリへの出品、
無断転載、複製転写、転用、WEB上へのアップロード
個人用途以外でのスキャン・デジタル化など。

本文の違法公開を見つけた際は、
検索サイトへのDMCA侵害申請、
サーバー会社への通報、
及び悪質な場合は損害賠償の請求等、
相応の対応を行います。

Twitter ID
@onigashima0202
PIXIV ID
momokawa21
E-mail
kyonproject1002@yahoo.co.jp
サークル
劇団★鬼ヶ島